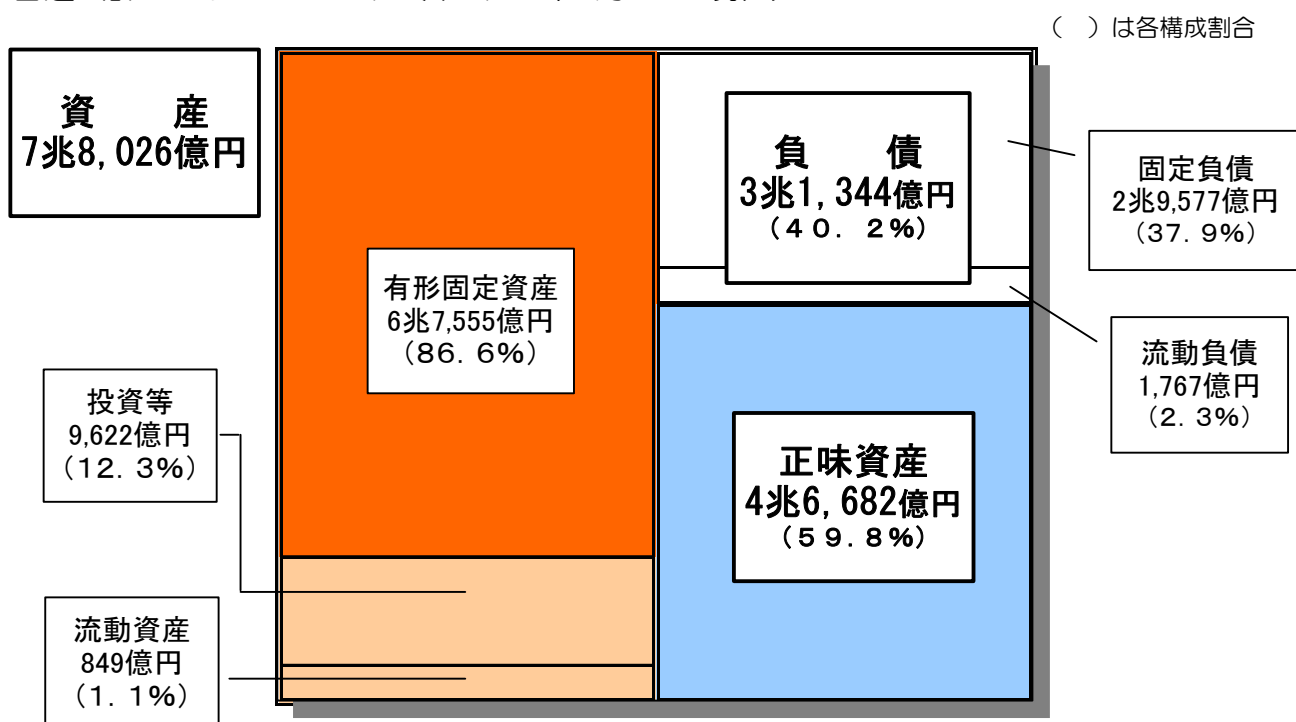


## ○ 普通会計のバランスシート

普通会計の平成 17 年度末（平成 18 年 3 月 31 日現在）の資産総額は 7 兆 8,026 億円、負債総額は 3 兆 1,344 億円、正味資産は 4 兆 6,682 億円となっています。

平成 16 年度末と比べると、資産が 18 億円（▲0.02%）の減、負債が 197 億円（0.6%）の増となっており、その結果、正味資産は 215 億円（▲0.5%）の減となっています。

普通会計のバランスシート（平成18年3月31日現在）



大阪市バランスシート（普通会計）  
（平成18年3月31日現在）

（単位：百万円）

借 方		貸 方	
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
1. 有形固定資産	(構成比)	1. 固定負債	
(1) 総務費	139,990 (2.1%)	(1) 地方債	2,707,616
(2) 民生費	150,002 (2.2%)	(2) 債務負担行為	4,979
(3) 衛生費	272,071 (4.0%)	(物件の購入等)	
(4) 労働費	1,734 (0.0%)	(3) 退職給与引当金	229,992
(5) 農林水産業費	506 (0.0%)	(4) その他	15,086
(6) 商工費	106,880 (1.6%)		
(7) 土木費	4,720,451 (69.9%)		
(8) 消防費	59,877 (0.9%)		
(9) 教育費	1,303,839 (19.3%)		
(10) その他	100 (0.0%)		
計	6,755,450 (100.0%)		
(うち土地)	2,955,849		
有形固定資産合計	6,755,450	固定負債合計	2,957,673
2. 投資等		2. 流動負債	
(1) 投資及び出資金	685,400	(1) 翌年度償還予定額	176,719
(2) 貸付金	201,971	(2) その他	0
(3) 基金			
① 特定目的基金	45,039		
② 土地開発基金	23,000		
③ 定額運用基金	6,769		
基金計	74,808	流動負債合計	176,719
投資等合計	962,179	<b>負債合計</b>	<b>3,134,392</b>
3. 流動資産		<b>【正味資産の部】</b>	
(1) 現金・預金		1. 国庫支出金	1,243,215
① 減債基金	38,045	2. 都道府県支出金	88,497
② 歳計現金	1,686	3. 一般財源等	3,336,475
現金・預金計	39,731		
(2) 未収金		<b>正味資産合計</b>	<b>4,668,187</b>
① 地方税	33,183		
② その他	12,036	<b>負債・正味資産合計</b>	<b>7,802,579</b>
未収金計	45,219		
流動資産合計	84,950		
<b>資産合計</b>	<b>7,802,579</b>		

※債務負担行為に係る補償等	①物件の購入等に係るもの	146,822 百万円
	②債務保証又は損失補償に係るもの	3,892,197 百万円
		(うち共同発行債に係るもの3,693,984百万円)
	③利子補給等に係るもの	11,823 百万円

※ 普通会計のバランスシートの作成方法に関する主な事項は次のとおりです。

- ・ 次の会計からなる普通会計を対象としています。

一般会計、市街地再開発事業会計の一部、土地先行取得事業会計、母子寡婦福祉貸付資金会計、心身障害者扶養共済事業会計

- ・ 基準日は平成18年3月31日現在とし、出納整理期間（4月1日～5月31日）における出納は基準日までに終了したものととして処理しています。
- ・ 基礎数値は昭和44年度から平成17年度までの決算統計のデータを用いています。
- ・ 有形固定資産の評価方法は取得原価とし、土地を除いて減価償却を行っています。減価償却は普通建設事業費の各区分ごとに耐用年数を設定し、その区分ごとに定額法により行っています。なお、他団体に支出した補助金、負担金等により形成された固定資産は計上していません。

本市では、早くから大都市としての都市基盤整備を進めてきており、この結果、正味資産比率（正味資産／資産総額）は平成17年度末では59.8%と前年度に比べて0.3ポイント低下しているものの、平成16年度末の他の政令指定都市と比較すると平均より1.8ポイント高い5番目の水準となっています。

（正味資産比率とは、資産のうち、これまでの世代によって既に負担された割合のこととで、この比率が高い方がこれからの世代の負担が比較的低いこととなります。）

普通会計のバランスシート～他都市との比較～（平成16年度末）

（単位：億円）

	大阪市 (17年度末)	大阪市 (16年度末)	他政令市 平均(※) (16年度末)	札幌市	仙台市	さいたま市	千葉市	川崎市
資産総額	78,026	78,044	27,772	32,053	18,027	12,967	13,607	21,333
負債総額	31,344	31,147	11,672	11,800	7,809	3,668	7,282	9,577
正味資産 (正味資産比率)	46,682 59.8%	46,897 60.1%	16,100 58.0%	20,253 63.2%	10,218 56.7%	9,299 71.7%	6,325 46.5%	11,756 55.1%
	(順位: 高い方から)	⑤	-	③	⑧	①	⑭	⑪

	横浜市	静岡市	名古屋市	京都市	神戸市	広島市	北九州市	福岡市
資産総額	64,251	10,014	40,525	23,095	46,207	21,425	25,153	32,379
負債総額	26,043	3,712	18,656	11,188	19,217	9,521	9,058	14,208
正味資産 (正味資産比率)	38,208 59.5%	6,302 62.9%	21,869 54.0%	11,907 51.6%	26,990 58.4%	11,904 55.6%	16,095 64.0%	18,171 56.1%
	⑥	④	⑫	⑬	⑦	⑩	②	⑨

(※) 他政令市平均の各数値はすべて、大阪市を除く13政令指定都市の単純平均です。

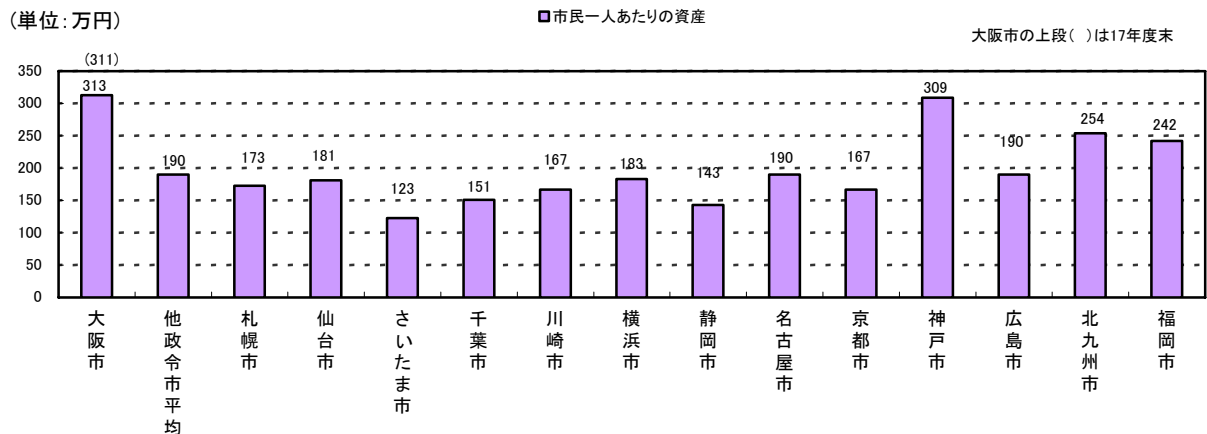
本市では人口や経済活動の集積から生ずる行政需要に応えるべく、大阪市民だけでなく、大阪都市圏全体を視野に入れた広域的な行政を行っており、必要な都市施設の整備に取り組んできました。その結果、バランスシートを市民一人あたりに換算すると、資産は311万円（平成17年度末）で、他の政令指定都市と比べても非常に充実した都市インフラを有している反面、資産に比例して負債も多く、市民一人あたり125万円（平成17年度末）となっています。

人口減少時代を迎える中で、将来の償還負担を考えると、起債の新規発行を削減し、この負債残高を減らしていく必要があります。本市における都市インフラは既に成熟しており、新たに整備が必要なものは少ないことから、今後はむしろ、これまで整備してきた都市基盤を十分に活用し、大阪の特性を活かしたソフト事業を充実させていくことが重要です。

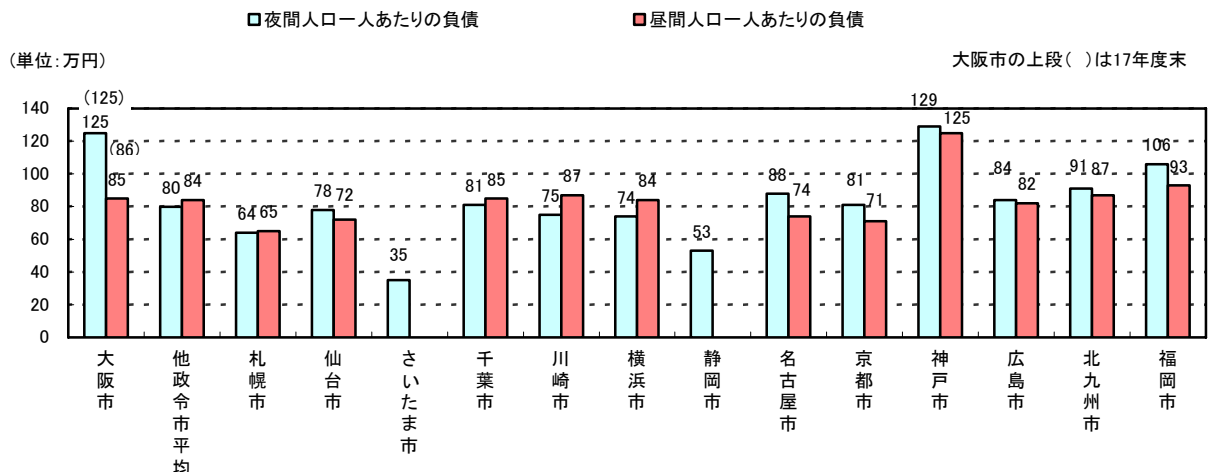
また、負債を昼間人口一人あたりに換算すると86万円（平成17年度末）で、平成16年度末の比較では、他都市とほぼ同水準にあります。都市インフラは住んでおられる人だけでなく、企業や昼間人口も使うものであり、その整備に伴う負債の償還には法人の経済活動等や昼間人口の消費活動等に伴う税収で賄われるべき部分も多いと考えられますが、現行の税制度上、法人所得や消費流通に関する税は国や府県が中心で、市町村への配分が非常に少ないことから、都市税源の拡充強化を引き続き強く要望していきます。

## 市民一人あたりバランスシート ～他都市との比較～（16年度末）

### 【資産】



### 【負債】



※市民(夜間人口)は各年度3月31日現在の住民基本台帳人口、昼間人口は平成12年度国勢調査による。また、平成12年度にさいたま市、静岡市は政令市として発足していないので、昼間人口一人あたりの負債は算出してない(他政令市平均にも含めていない)。